

区分	分類	項番号	機能仕様項目	回答	備考
基本要件	提案範囲	1	提案範囲は電子カルテ、必要な外来オーダー、および部門システム、医事システム、診断書作成システム、レセプトチェッカー、DI、医療辞書、DWHとする（治療RIS、PACS、DICOMビューア、オンライン資格認証は既存システムとする）		
	ライセンス	2	電子カルテシステム、医事会計システム、オーダーリングシステムの基幹システムはフリーライセンス（端末増設が可能）であること。		
	改定時対応	3	改定対応、消費税率の変更、新WindowsOSへの対応で費用が発生しないこと。マスターはオーダーと医事がセットになったものを提供できること。		
	導入環境	4	データベースの構造は当院に公開すること。		
	ネットワーク	5	現状のネットワーク設備を利用し、指定されたセグメントによって各機器との接続ができること		
	相乗り端末	6	提供される端末にクライアントモジュールが相乗りができること （富士フィルムメディカル治療RIS・DICOMビューア・AOC）		
	端末仕様	7	相乗りする端末に関して仕様は下記を上回る性能があること。 CPU：Intel(R) Core i3-2100 3.10GHz 以上 メモリ：8GB以上（増設可能なこと） HDD：256GB SSD デュアルモニター接続可能（HDMIまたはDISPLAY） DVD-Rドライブ付き		
	端末台数	8	HISデスクトップPC：47台、OFFICE含む HISノートPC：11台、OFFICE含む HISモニター：74台 HISモノクロPR：10台 HISカラーPR：13台 シェーマ用ペンデバイス：7台		
	システム移行	9	診療の継続に必要なデータを移行すること。移行範囲は事業者と当センターにて協議するものとする。		
		10	現行端末と重複して配置せずリプレースができること（医事端末は会議室に残し、現行サーバはサーバ室に残す）		
		11	提供される端末にクライアントモジュールが相乗りができること（富士フィルムメディカル治療RIS・RT・DICOMビューア） 検証用端末を既存システムベンダーへ提供すること。		
	サポート体制	12	導入後にオペレーションや設定等でサポートができるカスタマセンターを有すること		
セキュリティ	ウイルス対策	13	ウイルス対策ソフトを提案すること。またその定義ファイルの更新は提案者が行うこと。		
	ダウン対策	14	バックアップとして、電子カルテ及び医事会計システムサーバーの冗長化と院内にバックアップサーバーを設置すること。		
		15	院内のバックアップは前日ではなくリアルタイムでとられていること。サーバ障害時には切り替えて運用可能なこと。		
災害対策	16	外部のデータセンターにてデータのバックアップを保持できること。外部保管のデータは、ランサムウェア対策の観点から、世代管理されていること。			
患者基本情報	患者属性	17	患者毎に設定した項目（病院独自の患者属性）を多数設定でき、検索や集計ができること。		
		18	患者属性（ADL・食事・社会背景・認知等）充実できること		
	紹介元	19	紹介元の施設名・住所・医師名情報をマスタ管理できること。		
		20	予約時に紹介元施設、医師名が登録でき、返書作成時に利用できること。		
病名登録	病名登録	21	複数の病名をセットで登録できること		
		22	病名登録日は、病名登録作業を行っている日をデフォルトとし、変更可能とすること。変更する際は、カレンダーが表示されて、カレンダーから年月日を選択できること。なお、まず最初は変更前の月日の前後1か月のカレンダーが表示され、さらに他の月のカレンダーに変更可能なこと。		
帳票	帳票全般	23	ユーザ側で帳票の変更、新規作成が容易にできること。		
		24	PDFとして取り込む際、患者間違い・種別間違いを軽減できる機能を有すること。		
		25	記載内容が2枚以上になる紹介状を作成できること。また紹介状作成画面で、印刷時の改ページ箇所が表示されること。		
	同意書	26	電子カルテから同意書が発行できること、署名後のPDFは原本として電子カルテ内に保管できること		
	紹介状	27	紹介状のテンプレートを登録できること（たとえば、「A病院のマーカ留置」というタイトルを選ぶと、宛て先として「A病院 B科 C先生」と入り、病名や記載内容もテンプレートに登録されたものが入って、空欄を穴埋め、変更することで、簡易に紹介状が記載できること）。		
		28	紹介状の宛名は複数名入力できること。		
		29	紹介状送付時の郵送用の宛名ラベルが印刷できること。		

区分	分類	項番号	機能仕様項目	回答	備考
		30	登録された紹介元病院、紹介元医師名により返書が作成できること。		
受付	スケジュール確認	31	治療RISから治療予約日情報をオーダーとして取得しカルテで治療日を確認できること、治療のみ患者の受付も可能なこと		
		32	当日来院予定患者のリストに、その患者が何の予定で来たか、資料（保険証・検査データなど）の確認が必要なかが一目でわかる機能があること。		
	受付情報	33	治療予約患者を受け付けた場合は治療RISへ情報を送信できること。		
		34	検査で来ている患者の担当看護師を確認できる機能があること。		
	受付票	35	受付時に発行される受付票には病院独自のカスタマイズが可能なこと。		
		36	受付票は現行を基本として患者属性情報（アレルギー等）も印字できること。		
		37	受付時、受付番号が自動的に振り分けられ、受付票の印刷ができること。		
	保険証	38	オンライン資格認証システム（別途導入）と接続でき、効率的に資格更新ができること。		
		39	保険証登録の際、保険者番号を入力すると自動的に負担割合が設定されること。また負担割合は任意で変更できること。（限度額による割合変更など）		
		40	保険証と限度額適用認定証で別々の有効期限を設定できること。また有効期限切れの際はそれが一目でわかる機能があること。		
受付機	41	受付機との接続拡張が可能で、患者ごとの予約・オーダー等の印刷できること。			
会計	資格認証	42	オンライン資格認証システム（別途導入）と接続でき、効率的に資格更新ができること。将来可能性のある電子処方箋にも対応できること。		
	診察券	43	診察券発行機能があること。所定デザインのカードを利用できること。患者IDをバーコードで印刷できること。		
	初再診	44	会計計算の際の初診料、再診料を前回受診日から自動算定できること。		
	診断書作成	45	現在利用中の診断書作成システム（生命保険会社）を継続して使用できること。		
	請求書/領収書	46	領収書発行後に会計を追加した際、追加した会計のみの領収書が発行できること。		
		47	インボイス制度に対応した請求書が発行できること。		
	レセプト	48	医事会計システムと連動して同一端末で稼働するレセプトチェックシステムを提案すること。		
		49	会計をすることでレセプトの診療日数が自動的に加算される機能があること。		
		50	オーダー入力時にレセプトに表示させる必須のコメントを併せて入力できること。		
	マスタ	51	単純撮影検査、造影検査（オーダー項目）を区別して医事会計に反映できること。		
		52	医事会計用のマスタと紐づけられたマスタを簡単に作成できること。		
		53	自費マスタを任意で作成できること。		
		54	支払い証明書料を医事会計システムで手動入力できること。		
		55	診療情報提供書と返書を区別して会計を自動発生させられること。		
	加算	56	悪性腫瘍特異物質治療管理料1項目、悪性腫瘍特異物質治療管理料2項目以上のオーダー、指導記録記載、及び算定をサポートする機能があること。		
		57	外来放射線診療料の算定の入力ができること。またその算定日を診療日数としてカウントできること。		
		58	がん患者指導管理料2の指導オーダーを入力し算定できること。オーダー入力漏れの際に、医事会計システムで簡単にコスト算定ができる機能があること。指導記録は定型文を用いた入力補助機能があること。		
59		重粒子線治療加算（希少部位）の算定はキャンサーボードの結果により医事で加算を取れること。			
60		重粒子線治療加算（その他部位）の算定はキャンサーボードの結果により医事で加算を取れること。			
オーダー共通	61	保留オーダーができること。			
	62	オーダー保留時にオーダーの実施ができないこと（ラベル出力ができないこと）。			
	63	過去に行ったオーダーをもとに同じ内容でオーダー入力画面が出現し、簡易に同じオーダーができ、また、オーダー入力画面では変更した上でオーダーできること。			
	64	オーダー入力画面では、過去のオーダー履歴を呼び出すことができ、過去のオーダー内容を追加できること。			
	65	DWH機能を有しており、各オーダーごとに件数を調べられること。			
	66	各種オーダー、カルテ、病名を医師ごとにセット登録できること。 またセット適用日からマイナスの日付のセット登録も可能なこと。			
	67	各部門ごと（採決室・処置室等）で指示受けができること。			
画像	68	診断RISを提供しCT・MRI等検査機器の予約、実施登録ができること。			
	69	CT・MRI等検査機器の予約枠は任意の時間幅に変更できること。			
		70	受付済検査オーダーを実施しなかった際に、未実施登録ができ、検査オーダーが会計に送信されないこと。		

区分	分類	項番号	機能仕様項目	回答	備考
オーダー	検体検査	71	採血などの検体検査の過去のオーダーについて、いつ、どのような項目がなされたか、が分かること。また指示コメント内容や至急の有無も分かること。		
		72	外注検査システムから取り込んだ検査結果で時系列、および検歴参照、および患者への提供用印刷ができること		
	DI	73	選択した薬のドラッグインフォメーションが表示できること。		
	処方	74	一般名での後発薬処方が可能なこと。		
		75	外用薬処方の入力方法は容量ではなく「本」「個」等の入力が可能で、その場合日数を省略できること、また名称には* *mg等容量が記載されていること		
		76	ラキソベロンであれば1ボトルあたりの量、塗り薬であれば1本あたりの量、貼り薬であれば1袋あたりの枚数が分かるようになっていて(現行のシステムのようにインターネットで調べる、という必要がないこと)。		
		77	薬の処方時に、その薬に関連する病名が登録されていないときには、適切な病名候補を選べるようにリストが出てくること。病名を選択すると、同日付で病名が登録されること。ただし、病名を選択しなくても、処方できること。		
		78	検索してリストアップされた薬の一覧からドラッグインフォメーションが表示できること。		
		79	処方された薬の量が多すぎる場合に警告がでること。		
		80	アレルギー登録されている薬が処方された場合には警告がでること。また、検索時に出てくる薬の一覧では色が変わっていること。		
		81	薬を処方時に、併用禁忌の薬がすでに処方されている場合や禁忌となる病名がすでに登録されている場合、警告がでること。		
		82	すでに同じような薬が処方されている場合には、警告がでること。		
		83	電子処方箋に対応できること		
	処置	84	尿流量測定のコストはオーダー画面から入力できること。		
		85	残尿測定のコストはオーダー画面から入力できること。		
		86	他医撮影画像診断オーダーを入力し算定できること。オーダー入力漏れの際に、医事会計システムで簡単にコスト算定ができる機能があること。		
		87	手技のない処置薬剤をオーダー側で入力できること。		
	指導	88	指導オーダーを入力することで、各種指導料を医事会計に反映できること。		
	レポート	89	読影依頼、レポートを医師以外が入力できること。		
	その他	90	がんセンターボードのオーダーができること。またレイアウトは独自に作成ができること。 オーダー内容は、タイトル、指示コメント、司会者・放射線治療医・複数の各種専門医が登録でき、実施コメント（放射線治療・外科的治療・画像診断・その他・結論）登録できること。 また実施登録では加算（希少部位、その他部位）が選択でき、医事へ送信できること。		
診療予約	予約枠	91	診療予約枠を、医師ごとに「新患枠」「再診枠」など任意の名称の枠が設定でき、枠毎に予約受入可能人数の設定ができること。		
	予約票	92	患者向けの予約票がプリントアウトされること。予約票には、患者の氏名とID、予約の日時と内容(○○Drの診察など)と患者向けのコメント(例、採血データをお持ちください)が記されていること。		
	予約一覧	93	予約票の患者向けのコメントとは別に、院内のリスト表示においてコメント(例、前立腺癌 治療後3ヶ月)が表示されること。また、他の患者の予約時にもどのような患者が予約されているかがわかるように、コメントが表示されること(現行のシステムのように患者向けのコメントと院内向けのコメントが同じ、とはなっていないこと)。		
	予約方法	94	1患者で連続して予約を取得する際に、予約画面を閉じることなく簡単な操作で複数の予約枠を抑えることができること。		
システム連携	95	カルテから患者ID連携で他社システム（診断書、治療RIS、PACSビューア等）と連携起動できること			
	96	JCROS向けのデータ入力がカルテ記載時にできること。			
医療辞書	97	医療辞書を導入すること。医療辞書はシステムの利用者IDと連動するローミング機能を有していること。			
テンプレート	98	カルテのテンプレートが登録できること。			
	99	テンプレートは病院全体共通、ユーザー個別のもの、両方を登録できること。			
	100	SOAPとフリーの記載ができること。			
診断書作成	101	個人ごとにカスタマイズができる定型文機能を有していること。			
	102	当院独自の診断書（生保以外）を作成できること。また診断書の会計（自費）もできること。			
	103	現在利用中の診断書作成システム（生命保険会社）を継続して使用できること。			
カルテ参照	104	複数のPCから同時に一患者のカルテを開きカルテ記載やオーダー入力ができること。			
	105	1台のPCで、同時に2名以上のカルテを開けること。			
予定一覧	106	今後の来院予定日が分かり、何をやる予定になっているか分かること。			

区分	分類	項番号	機能仕様項目	回答	備考
カルテ	付箋	107	カルテを開けると、ポストイットのようなものが表示され、注意点などが記載できること。		
		108	キーとなるカルテに付箋を貼ることができること。		
	記事検索	109	カルテの記載内容や記載者などをキーにして、過去のカルテを検索できること。		
	カルテ開示	110	患者からの求めに応じてカルテ開示機能があること。		
	症状詳記	111	カルテで症状詳記ができ、レセプトに印刷できること。		
	患者サマリ	112	患者のサマリーを記載できること。テンプレートがあること。		
	Do入力	113	過去のカルテ内容からDo入力でカルテ記載(変更)できること。		
	シェーマ	114	一つのカルテ記載画面で、複数のシェーマ図を貼り付けできること。		
		115	オーダー時に画像を貼り付ける際、カルテに張り付け済みの画像をコピー&ペーストで貼り付けることができること。		
		116	電子カルテの機能として、画面の指定した範囲を画面コピーしてカルテに貼り付ける機能を有していること。		
	スキャン	117	院内で発行する文書には2次元コード（もしくは1次元バーコード）を印字し、スキャナ取込の際に患者及び文書種別の自動振り分けができること。		
		118	外部からの患者の文書（検査結果等）の取り込みも文書種別や患者ID等の取り違い対策があること。		
		119	タイムスタンプ機能を有し登録したPDFを原本として扱えること。		
	カルテ記載	120	記載削除は書いた本人以外できないようにすること。		
121		実施日順・指示日順のソートができるように、またオーダー種ごとのフィルタができること。			
122		バイタルサインの入力ができるようにすること。			
オンライン	資格認証	123	オンライン資格認証システムと接続できること。		
	検体検査	124	現行の外注検査システムと接続し検査依頼、結果取り込みができ、カルテで提供された検歴、時系列参照ができ、さらに患者提供用の時系列を含む検査結果が印刷できること		
		125	検体検査は、外注先の日本臨床と検査依頼データ、検査結果データを連携すること。（日本臨床サーバは院内でネットワーク接続）接続の際、必要なら電文フォーマットは検査業者と協議して見直すこと。		
	画像機器	126	既存の機器、CT・MRIと接続できること。		
		127	RISにて内視鏡検査装置とMWM連携すること。		